令和８年３月30日

フィリピン・ムンテンルパ活動報告書

氏名：加藤彰紘
所属：九州大学理学府地球惑星科学専攻
宇宙地球電磁気学研究室
出張期間：2026年３月22日-３月26日
出張先：フィリピン・ムンテンルパ

フィリピン・ムンテンルパ磁力計観測点にて、雷により故障していた磁力計の修理と、新磁力計の設置を行った。他参加者は、阿部修司博士（九州大学 i-SPES）、 Vincent Topacio さん（九州大学）。現地カウンターパートナーは、NAMRIA Magnetic Observatory のスタッフである Lt. Marck Daniel Santos – Chief さんと、Manila Observatory/アテネオ大学の Dr. Sheldon Niño Uy さん。

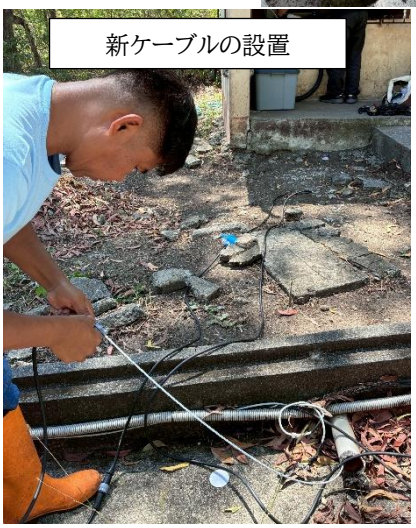
■ 03月23日（MUT）

雷により損傷したと考えられる磁力計の交換。事前に磁力計はフィリピンより輸送され日本にて修理を行っている。水没した跡もないため、旧ケーブルと新センサーを接続し観測した。結果、HDZ成分については観測できたがチルト系が故障していることが確認できた。24 日にケーブルの交換を行う。

雷により損傷したケーブルの交換

■ 03月24日（MUT）

故障したケーブルの交換。旧ケーブルは地中パイプに配線されており取り出すことができなかった。そのため旧パイプの掘り起こしと新ケーブル設置を行う。またロガー小屋内のネットワーク整備を行った。なぜかLAN ケーブルが外されており接続ができなかった。ケーブルの長さも足りず以前までどのように接続されていたのか…謎。センサーハット内にカエルの親子がいた。


新ケーブルの設置

アンプ箱
仮ケーブル

■ 03月25日（Manila Observatory）

フィリピンにある MAGDAS 観測点に関する情報交換を行った。特にDAV 観測点は磁力計に適さない環境のため移転先について議論。近年フィリピン観測点周りは発展をしており、磁力計と電気機器までの距離が50m の地点もあり変更が必要である。

Manila Observatory

現地の研究者との交流や、国際地上多点ネットワーク観測網（MAGDAS）に関する設置講習会を通じて、特にデータノイズに関する理解が深まり、研究の視野が広がった。得られた知見を自身の研究活動に活かしていく。